

Sailing Grandslam in Spain

Race report

**Kuragano
Takumi
JPN801**



どうも！ウィンドサーファー倉鹿野巧です。
今回は初出場してきた国際大会についてレポートしていきます



54 trofeo Princesa Sofia [Sailing Grand slam]

今年で54回目の開催、スペインのソフィア王女の名前が大会名に含まれる格式ある大会です。スペインのバレアレス諸島の一つ、マヨルカ島で開催されセーリングオリンピック種目の全10クラスで競われるセーリングの世界選手権です。各国のトップ選手が集まるハイレベルな大会で、オリンピックの国代表の選考大会にもなります。



マヨルカ島は地中海リゾート



SAILING ENERGY

今大会での目標と目的！

目標・・・上位 50%

大会の出場目的・・・世界のやり方を自分の目で確かめたい！

日本の IQFOIL 競技は世界に比べ遅れています。ヨーロッパの国々がどこも強いのは大会ごとに情報の共有が行われていることが一つの理由です。日本にいと情報は海外遠征に行った選手から聞くしかありません。百聞は一見にしかず、自分で確かめたいと思うようになりました

- * 僕は世界ではどのランク？
- * 世界と何がそんなに違う？
- * 世界の選手の平均体重は？

これ以外にも疑問だらけなので全て解消してから帰るのが目標です。



オリンピックセーリング種目 全10クラス

IQFOIL men's class に出場

49er 男女別2クラス



IQFOIL 男女別2クラス



Formula Kite 男女別2クラス



ILCA 男女別2クラス



470Mixed 男女混合1クラス



nacra17 男女混合1クラス



前入り期間開始

レース当日までは9日間。スペインの食事や気候に慣れてベストコンディションで望めるように整える期間です

今回は現地での自炊生活のテンポを掴むのに苦労しました。お米が売っているのですがやはり日本のような美味しい米ではなく扱いにくい。スーパーでスペイン語を翻訳しながら探すので疲れてしまいます。少しずつ慣れていきます。



レース会場の環境

波の強さ、地形的な特徴、風向の傾向、etc...

レースが始まるまでに押さえておきたい情報をチェック！

- * 日本とほぼ同じ気候でとても快適
- * 風が弱い予報でもなんだかんだ吹いてくれる
- * 波は日本のホームゲレンデよりも少し大きく難しい

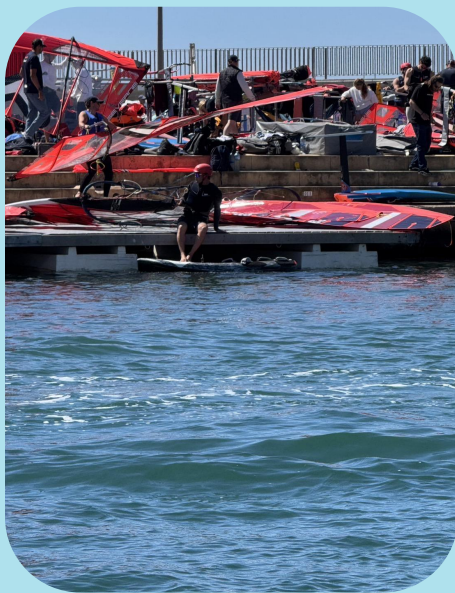
・・・総合的に80点くらい！のウィンドサーフィン環境でした



出艇はこんな感じ



順番が来たので
ボードを海に入れて
セイルをつけて準備



出艇可能エリアが狭い！
後ろで道具持ったまま
順番待ち中



沖へ向かいます！

出艇後は
日本の船を見つけて



前入り練習

到着した次の日から練習を開始

- * 実際に現地の波風を感じてライディング
- * 日本と同じチューニングで大丈夫なのを確認

海外の有名選手や、オリンピックメダリストが近くで道具準備をしているのでチューニングをちらっと覗き見
練習後の選手と遭遇できた時は、質問して自分の道具を見てもらったり、コツを教えてもらいました。

変えたからと言ってすぐに速くなる訳ではないのですが、チューニングに自信を持てるかどうかでだいぶ違います。
すぐに取り入れて練習していきます



他国の選手と合同で練習

レースが近づいて来ると、色々な国が集まり、模擬レースを実施することがあります。

これは、セーリングが相対的に自分のスピードを知る必要があるからです。風が常に変化するので、いつも同じスピードは出せないスポーツです。そのため、同じコンディションでみんなに乗った時に、周りに比べて自分がどのくらいのスピードなのか重要なのです！



模擬レースで海外のレベルを体感

ここで初めて海外選手のスピードを目の当たりにしました。日本の誰よりも速い選手が半分以上。予想していたことではありませんでしたが、再確認させられました。

ただ、ここで落ち込んでではなく、ほとんどの人がそのスピードが出るなら多分特別難しいことではなく、僕が大事な何かを知らないだけなのだろう、と思って違いを探すことにしました！

大会レジストレーション

大会本部にて出場の登録

- * 万が一の保険加入の確認
- * パスポートの確認
- * レースフリート分けのリボン受け取り

もし人を怪我させてしまった時のために、選手は個人での保険加入が必須になっています。
クラッシュにより壊れてしまった道具の保証は基本的にはないので、自費で修理になります。もし、自分原因でのクラッシュだった場合は相手の道具代を払うことになるパターンも、、、



道具の計測

* レースで使用する道具のシリアルナンバーチェック

IQFOIL classはレースで使える道具が一つと決められています。また改造も禁止なので、最初に全てシリアルナンバーを控えた状態でレーススタートします。レース期間の途中で抜き打ちチェックもあるみたいです。



計測済みの道具には
ステッカーが貼られます

レース日程スタート

全6日間のレーススタート

* 基本は1日4レース

* 3つのレース方式

世界規模の大会は参加人数が多いので、全参加者を2つに分けてレースが進行していきます。今回は、イエローとブルーの2チーム！この組分けは毎日変更され、前日までのリザルトを元に、レベルが偏らないように設定されます。

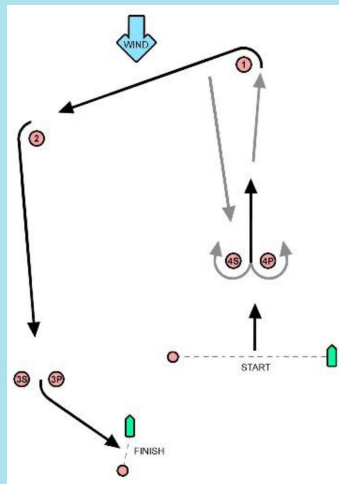


レース1日目・コースレース

右の図はレース初日のコースです

- * 1レース約20分
 - * 60人が一斉にスタート
 - * スピードよりもレース戦略が求められるコース
- セーリングではベーシックなコース設定で、大迫力のスタートが魅力です

初日は連続で3レース実施し2時間半ほどで終了



初日の感想

スタートがとにかく難しい！

ウィンドサーフィン競技はとにかくスタートが大事。少し反応が遅れたり、波に当たってしまったら速攻で埋もれてしまいます。一度埋もれたら半分以下は確定でしょう。それくらい重要なんです。

1本スタートを綺麗に切れたレースは途中まで半分以上にいたので、どうしたら毎回スタートをミスなくできるかを考え、行動をルーティーン化するのが課題になりました。

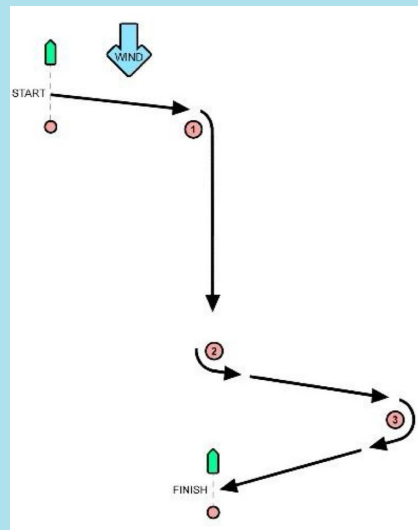
レース2日目・スラロームスプリント

右の図がレース二日目のコースです。

- * 風が弱いときに実施
- * 1フリート最大20人
- * 1レース4分ほど

かなり風が弱いためにコース変更となりました
このコースはスラロームスプリントと呼ばれ、スピードが特に重要なポイントとなるレース形式です。
スタートラインをトップスピードでタイミングよく通過することが
大切で、フライングすると一発で失格になります。

二日目は5レース実施 ここまで合計8レース



まさにスピード勝負

日本でもこの形式のスタートは何度もやってきたこともあり、スタート自体は全然難しいことはなく攻めてスタートすることができていました。ただ、その後のスピードで全然離れていってしまいます。同じ道具に乗っているはずなのにどうしてそこまでスピードが違うのか不思議すぎます。

このコースは明らかにスピード勝負、逆にそれ以外の力はそんなに必要ないんじゃないかと感じました。

とりあえず今後このコースで勝てるようにするには何をすべきかがはっきりしていい収穫でした。

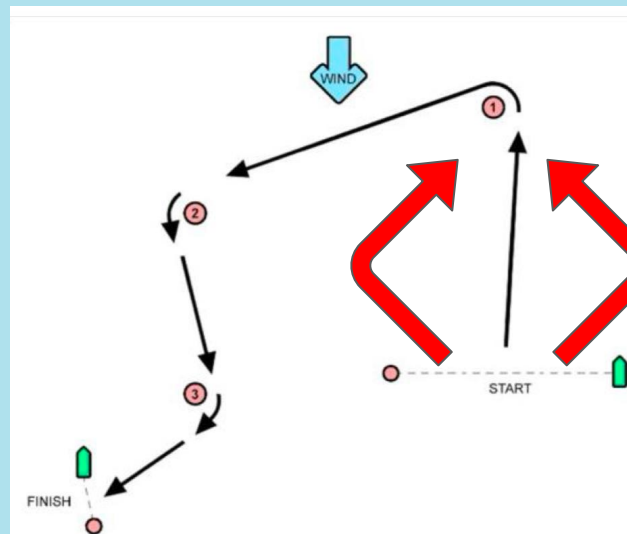
レース3日目・アップウィンドスプリント

右図:3日目のコース図

- * 1レース7分ほど
- * 1フリート最大20人
- * 風が弱い時に実施

今大会から新しく導入されたコース形式で、二日目に行ったスラロームスプリントと同じような短時間でレースが終わるスプリント系レースです。

4レース実施 ここまで合計12レース



スピードと戦略

スプリント系なのでスピード勝負だけかと思いきや、想像より戦略的要素がありました。色々な方向に進むコース設定なので、その分だけ考えることが増えました。スタート直後は風を読んで戦略的に、それ以降はスピード勝負、といった感じの2つの要素が組み合わさっていて、まさに1日目と2日目のコースの間、といった感じがしました。

3日間で全てのコースを経験することができ、自分は二日目のスラロームスプリントに一番楽しさを感じました。



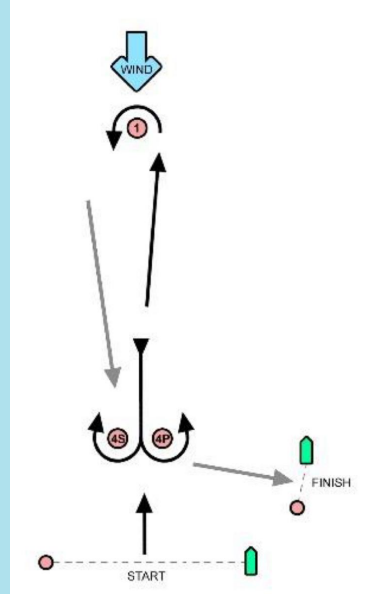
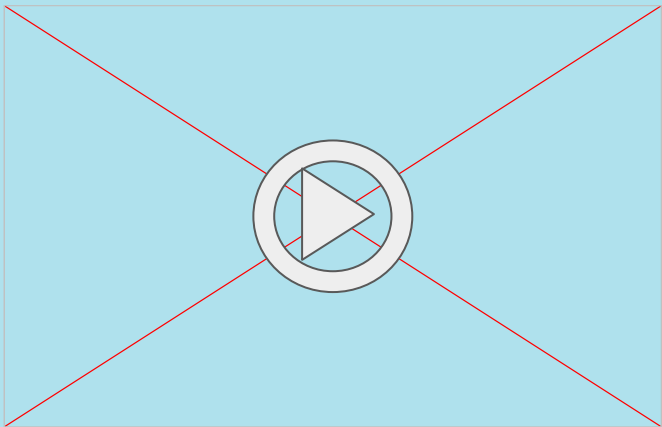
レース4日目・コースレース

4日目からは、3日目までのリザルトを元に半分以上はゴールドフリート、半分以上をシルバーフリートの2つに分け進行します。
この時点で僕は111人中93位のシルバーフリートでした。

右図:4日目のコース図

- * 1日目とほぼ同じレース形式
- * セーリングのベーシックな形式
- * 風が強い時に実施

シルバーフリートで4レース実施 ここまで合計16レース



シルバーフリートで攻めまくる

他選手の圧にも慣れてきた4日目、もうレースも終盤ということで、勉強のために有名な選手の後ろからスタートしてみました。スタート後にしばらく付いていき、セイルの動かし方、乗り方などを見てみましたが、これがかかなり発見があり、自分のやっていたやり方と違う点がいくつかありました。もう少し早く知りたかったと思いつつ、とてもいい収穫です。

本当は5日目があるのですが、風がなくノーレースでした。

初レースで受けた衝撃3選

トップ選手の勢い

IQFOILのゴールドフリートのスタート地点は、選手同士の衝突が頻発し、高価な道具が破損する危険な場所です。この道具は個体差が大きく、選手は厳選した高価なものを使用しています。スタートでは、優先権を持つはずの選手を無視して突っ込む選手がおり、多くのクラッシュが発生し、高価なフォイルが壊れる様子が見られました。トップ選手はリスクを恐れず、むしろ積極的に衝突を利用するかのようスタートダッシュを仕掛けており、上位入賞にはハイリスクなスタートが不可欠であるように感じられました。この光景から、他国の選手の資金力の大きさを改めて感じました。

風が弱くてもレース続行

IQFOIL競技では、レースが成立する風域が定められているはずですが、実際にはその下限に近い、あるいはそれ以下の微風コンディションでもレースが実施されているように感じました。道具が辛うじて浮くかどうかという不安定な状況や、レース中に複数の選手が失速してしまうような状況でも、レースは続行されます。レース成立の基準自体は存在するものの、体感としてはかなり高い設定になっているようです。このような微風コンディションは、日本の国内練習ではほとんど経験がございません。今後、同様のコンディションでのレースも想定されますため、日本の練習内容に新たな要素を取り入れていく必要性を強く感じました。

国単位で動いていないのは日本だけ

他の国は、国のセーリングチームで練習を行っていましたが、日本は基本的に個人行動です。それぞれが他の国の練習に混ぜてもらっています。こういうところも日本が強く慣れない原因なのかも知れないと感じました。

レース結果

111人中 93位 全体の83%

目標としていた上位50%には遠く及ばない結果となりましたが、非常に多くの学びを得られた遠征となりました。『浮かんだ疑問をすぐに質問できる環境』『大人数での実践的なレース練習』『伴走船による手厚いサポート』など、そのほとんどが日本では経験できない、まさに最高の環境で貴重な経験を積むことができました。

初めての海外大会遠征で、自身の進歩を実感できたことは大きな喜びです。しかし同時に、他の日本人選手よりも多く海外遠征を重ねられるような活動力を身につけなければ、オリンピック競争に勝ち残ることは難しいという現実も痛感しました。

今後は、技術力の向上はもとより、より良い競技環境を自ら作り出せるよう、より一層精進していきます。

最後に

この度、海外での貴重なレース経験を積む機会を頂戴いたしましたこと、品川鐵工場様に心より感謝申し上げます。ご支援なしには、この素晴らしい経験を得ることはできませんでした。この経験を活かし、今後の競技活動に邁進していく所存です。誠にありがとうございました。

Gallery

